

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-316447
(P2000-316447A)

(43)公開日 平成12年11月21日(2000. 11. 21)

(51)Int.Cl.⁷
A 0 1 K 97/24

識別記号

F I
A 0 1 K 97/24

テーマコード(参考)

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-126879

(22)出願日 平成11年5月7日(1999. 5. 7)

(71)出願人 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72)発明者 小路 公武

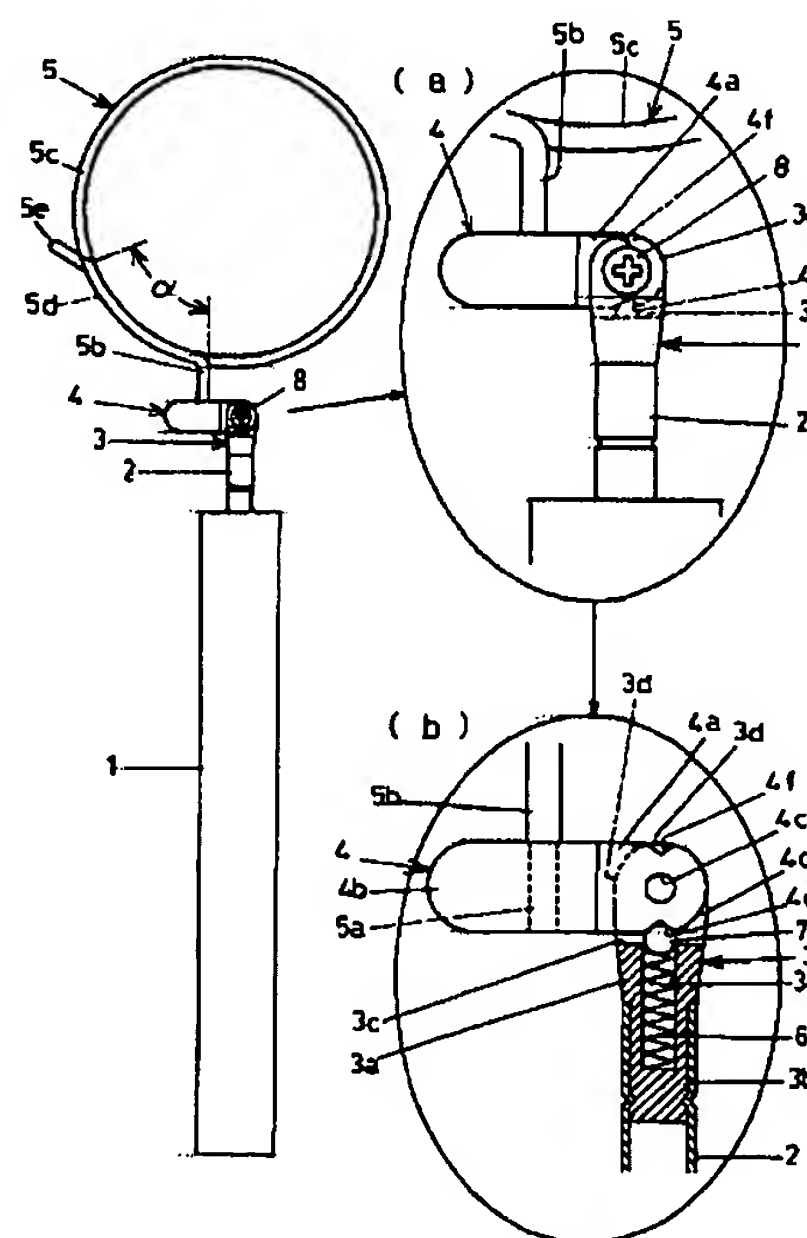
東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内

(54)【発明の名称】 根がかり外し器

(57)【要約】

【課題】 嵩張らず、携帯性に優れていること。

【解決手段】 振り出し式に伸縮自在の柄部1の先端の竿管2の先端に保持部材3の小径部3bが固定されて保持部材3の太径部3aの先端にすり割3cで両側保持部3d、3dが形成され、すり割3cの下側中心に縦穴3eが形成されて縦穴3eの中には発条6と球体7が挿入されている。両側保持部3dの間のすり割3cに回動部材4の回動基部4aが挿入されてネジ8で回動自在に取り付けられ、回動基部4aには透孔4cが穿設されると共に一端外形は円弧部4dに形成され、側部に切欠き4e、4fが形成されている。回動部材4にループ状の糸掛け部5の一端部5aが固定され、糸掛け部5は金属線材で一端部5aと接続部5bと、接続部5bから折曲されてループ部5cとループの重ね部5dと開放突出部5eとで形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】伸縮可能な柄部の先端部にループ状の糸掛け部を設けた根がかり外し器において、該糸掛け部が該ループの形成する平面と同一方向に回動可能な手段を有することを特徴とする根がかり外し器。

【請求項2】前記ループ状の糸掛け部を前記柄部の前方に回動して繰り出した位置と前記ループの形成する平面が前記柄部と重なる位置に夫々回動規制される規制手段を有することを特徴とする請求項1記載の根がかり外し器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、根がかり外し器の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】鮎釣で鮎等が底に引っかかったりする際に針を外すのに各種の根がかり外し器が提案されている。従来例えば実開平4-127179号公報が上げられるが、この公報の根掛かりしたおとり鮎の救出器具の構成は、伸縮自在の柄の先端に糸掛部を固定して設けると共に、糸掛部は開閉自在でおとり鮎を挿通できる大きさのループ状をしている。従ってループ状の糸掛部に釣糸を通す時には、開閉部分を開閉しなければならず、かつおとり鮎を挿通できる大きさのループ状の糸掛部は柄の先端に固定して設けているので嵩張ることになって携行に不便であった。前記開閉部分を開閉する作業は、両手で行うことになり、鮎釣りのように常時竿を両手で持ち川に立ちこんで行う釣には、煩わしいものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】解決しようとする問題点は、柄の先端におとり鮎を挿通できる大きさのループ状の糸掛部を固定して設けているので嵩張ることになって携行に不便であり、糸掛部に糸通しも煩わしいことである。

【0004】本発明の目的は前記欠点に鑑み、嵩張らず、携帯性に優れている根がかり外し器を提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、請求項1に係わる本発明は、伸縮可能な柄部の先端部にループ状の糸掛け部を設けた根がかり外し器において、該糸掛け部が該ループの形成する平面と同一方向に回動可能な手段を有することを要旨とするものである。請求項2に係わる本発明は、前記ループ状の糸掛け部を前記柄部の前方に回動して繰り出した位置と前記ループの形成する平面が前記柄部と重なる位置に夫々回動規制される規制手段を有することを要旨とするものである。

【0006】

【発明の実施の形態】請求項1の本発明により、糸掛け部5が柄部1の前方に回動して繰り出された位置から柄

部1に沿って重なる位置に回動されると、仕舞寸法が短くなって携帯性が良くなる。

【0007】請求項2の本発明により、糸掛け部5の一端部5aと接続部5bは回動中心のネジ8より左側に設けられて回動規制手段の発条6で付勢された球体7が切欠き4eに係止されているので、掛け針11を根がかりから外す時、伸縮可能な柄部1が前方に押し出されて糸掛け部5が前方に押し出されると、図1で糸掛け部5はネジ8を中心に反仕舞方向の反時計方向に回動される。

10 掛け針11を根がかりから外す時、柄部1が手前に引かれる場合も、一端部5aと接続部5bが偏芯位置にあり、回動規制手段の発条6で付勢された球体7が切欠き4fに係止されているから糸掛け部5が仕舞方向の時計方向に回動されることがない。

【0008】

【実施例】以下、図示の一実施例によって本発明を説明すると、図1は根がかり外し器の平面図と(a)一部拡大平面図と(b)一部拡大断面平面図、図2は根がかり外し器の側面図と一部拡大側面図、図3は回動部材が保持部材の長手方向に伸ばされた断面側面図、図4は根がかり外し器の糸掛け部が前方に回動して繰り出された要部斜視図、図5は根がかり外し器の糸掛け部が柄部側に仕舞込まれた要部斜視図、図6は根がかり外し器の糸掛け部が柄部側に仕舞込まれた平面図、図7は根がかり外し器に釣糸が通される平面図、図8は釣り場で根がかり外し器に釣糸が通されて使用される説明図である。

【0009】根がかり外し器Aは柄部1の先端の竿管2の先端に保持部材3が固定されて保持部材3に回動部材4が回動自在に取り付けられ、回動部材4にループ状の糸掛け部5の一端部5aが固定されている。柄部1は複数本の竿管で振り出し式に伸縮自在に構成されている。保持部材3は円柱状で太径部3aとやや小径部3bで形成されている。小径部3bの外周は竿管2の先端内に固定されている。太径部3aの先端にすり割3cで両側保持部3d、3dが形成され、すり割3cの下側中心に縦穴3eが形成されている。両側保持部3d、3dには長手方向と直交する方向のネジ用皿孔3fとネジ孔3gが形成されている。縦穴3eの中には発条6と球体7が挿入されている。

【0010】回動部材4は円柱状で一端に前記すり割3cに嵌合可能な厚さの回動基部4aが形成され、他端の糸掛け連結部4bの側部に糸掛け部5の一端部5aが直交するように固定されている。回動基部4aには透孔4cが穿設されると共に一端外形は円弧部4dに形成され、側部に切欠き4e、4fが形成されている。保持部材3に回動部材4が回動自在に取り付けられる時は、すり割3cの中に回動基部4aが挿入され、ネジ用皿孔3fと透孔4cにネジ8が挿入されてネジ孔3gに螺合される。図3では回動基部4aの両面に薄いワッシャ9、9が当てられている。切欠き4e、4fに球体7が発条

6で付勢されて係止されることで回動規制手段が構成されている。前記ネジ用皿孔3fとネジ孔3gは、夫々透孔と皿孔で形成してカシメピンを挿入して保持部材3と回動部材4を回動自在に取り付けてもよい。

【0011】糸掛け部5はアルミ、ステンレス等の金属線材で一端部5aと接続部5bと、接続部5bから折曲されてループ部5cとループの重ね部5dと開放突出部5eとで形成され、ループの所定量 α が間隔 β で重ね合わされるように形成されている。ループ部5cの外径は、おとり鮎が容易にくぐらせ易い例えば56mm ϕ に形成されている。一端部5aと接続部5bは図1でループ部5cの中心より左側でかつ回動中心のネジ8より左側に設けられている。

【0012】糸掛け部5が保持部材3に対して使用状態では、糸掛け部5のループ部5cの形成する平面と同一方向に糸掛け部5が保持部材3と柄部1の前方に回動されて繰り出された位置になる。仕舞状態ではループ部5cの形成する平面が柄部1に沿って重なる位置に角度180度回動される。即ち、糸掛け部5は回動部材4と保持部材3とネジ8で柄部1に対して回動可能な手段で設けられている。糸掛け部5が柄部1の前方に回動されて繰り出された位置では、発条6で付勢された球体7が切欠き4eに係止される。糸掛け部5が柄部1に沿って重なる位置では、発条6で付勢された球体7が切欠き4fに係止される。

【0013】根がかり外し器Aの糸掛け部5のループ部5cの中に釣糸10が挿入される時は、図8で掛け針11が根がかりした状態で釣竿12と柄部1を握り、図7のように糸掛け部5の接続部5bに釣糸10を当て、柄部1を手前に引くことでループ部5cとループの重ね部5dの間に釣糸10を通すと共に更に柄部1を引いてループの重ね部5dの開放突出部5eに釣糸10を通過させることでループ部5cの中に2点鎖線のように釣糸10を通すことが出来るので、両手のふさがる鮎釣でも片手で操作することが出来る。使用される釣竿12には釣糸10が取り付けられ、釣糸10におとり鮎13が取り付けられると共に釣糸10の先端に掛け針11が取り付けられている。

【0014】根がかりした掛け針11を外す時は、釣糸10が通された糸掛け部5を釣糸10に沿って下降させてループ部5cの中におとり鮎13を通すと共に、ループ部5cを掛け針11に当てて押し下げたり、引くことで根がかりを外すことが出来る。ループ部5cの中に一旦釣糸10を通すと、掛け針11をループ部5cから外すまで外れ難いので、根がかり外し器Aの操作が容易になる。一端部5aと接続部5bは回動中心のネジ8より左側に設けられて回動規制手段の発条6で付勢された球体7が切欠き4eに係止されているので、掛け針11を根がかりから外す時、柄部1が前方に押し出されて糸掛け部5が前方に押し出されると、図1で糸掛け部5はネ

ジ8を中心に反時計方向に回動される。

【0015】釣糸10を糸掛け部5から外す時は、ループ部5cに掛け針11と釣糸10を通過させるか、ループ部5cと開放突出部5eの間に釣糸10を通し、柄部1を前方に押し出すことで外すことが出来るので、両手のふさがる鮎釣でも片手で操作することが出来る。糸掛け部5が柄部1の前方に回動して繰り出された位置から柄部1に沿って重なる仕舞位置に回動される時は、地面や岩石等に糸掛け部5の先端を当てて発条6の付勢に抗して球体7を切欠き4eから切欠き4fの方向に回動することで容易に片手で仕舞状態にすることが出来る。

【0016】従来の根がかり外し器の形状で先端がループになっているものは、ループの内径が大きい程おとり鮎をくぐらせ易いが、逆にループの径を大きくするとポケットには収納し難くなる。しかし前記のように根がかり外し器Aを構成することで、柄部1に沿って糸掛け部5が重ねられるため、ループの径を大きくしても携帯性を向上させることができる。前記のように柄部1に固定された保持部材3に、糸掛け部5の一端部5aが固定された回動部材4を回動自在に取り付けられると、保持部材3と回動部材4を細身に形成することが出来るので、水の抵抗を受け難く、ループ状の糸掛け部5の脱落の心配もない。糸掛け部5はループ部5cの形成する平面上を左右方向に回動することで繰り出し状態と仕舞状態とすることが出来るので、使用状態で糸掛け部5をループ部5cの形成する平面上を上下方向にあおる操作も可能となる。

【0017】前記のように根がかり外し器が構成されると、糸掛け部5が柄部1の前方に回動して繰り出された位置から柄部1に沿って重なる位置に回動されると、仕舞寸法が短くなって携帯性が良くなる。糸掛け部5の一端部5aと接続部5bは回動中心のネジ8より左側に設けられて回動規制手段の発条6で付勢された球体7が切欠き4eに係止されているので、掛け針11を根がかりから外す時、柄部1が前方に押し出されて糸掛け部5が前方に押し出されると、図1で糸掛け部5はネジ8を中心に反仕舞方向の反時計方向に回動される。糸掛け部5が柄部1に沿って重なる位置の仕舞状態にされた時、一端部5aと接続部5bが偏芯位置にあり、回動規制手段の発条6で付勢された球体7が切欠き4fに係止されているから糸掛け部5がガタつくこともない。

【0018】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果を奏する。

【0019】請求項1によると、糸掛け部が柄部の前方に回動して繰り出された位置から柄部に沿って重なる位置に回動されると、仕舞寸法が短くなって携帯性が良くなる。

【0020】請求項2により、糸掛け部は回動規制手段で係止されているので、掛け針を根がかりから外す時、

柄部が前方に押し出されて糸掛け部が前方に押し出されると、糸掛け部は回動可能手段で反仕舞方向に回動される。掛け針を根がかりから外す時、柄部が手前に引かれる場合も、糸掛け部は回動規制手段で係止されているから糸掛け部が仕舞方向に回動されることがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】根がかり外し器の平面図と（a）一部拡大平面図と（b）一部拡大断面平面図である。

【図2】根がかり外し器の側面図と一部拡大側面図である。

【図3】回動部材が保持部材の長手方向に伸ばされた断面側面図である。

【図4】根がかり外し器の糸掛け部が前方に回動して繰り出された要部斜視図である。

【図5】根がかり外し器の糸掛け部が柄部側に仕舞込ま

れた要部斜視図である。

【図6】根がかり外し器の糸掛け部が柄部側に仕舞込まれた平面図である。

【図7】根がかり外し器に釣糸が通される平面図である。

【図8】釣り場で根がかり外し器に釣糸が通されて使用される説明図である。

【符号の説明】

A 根がかり外し器

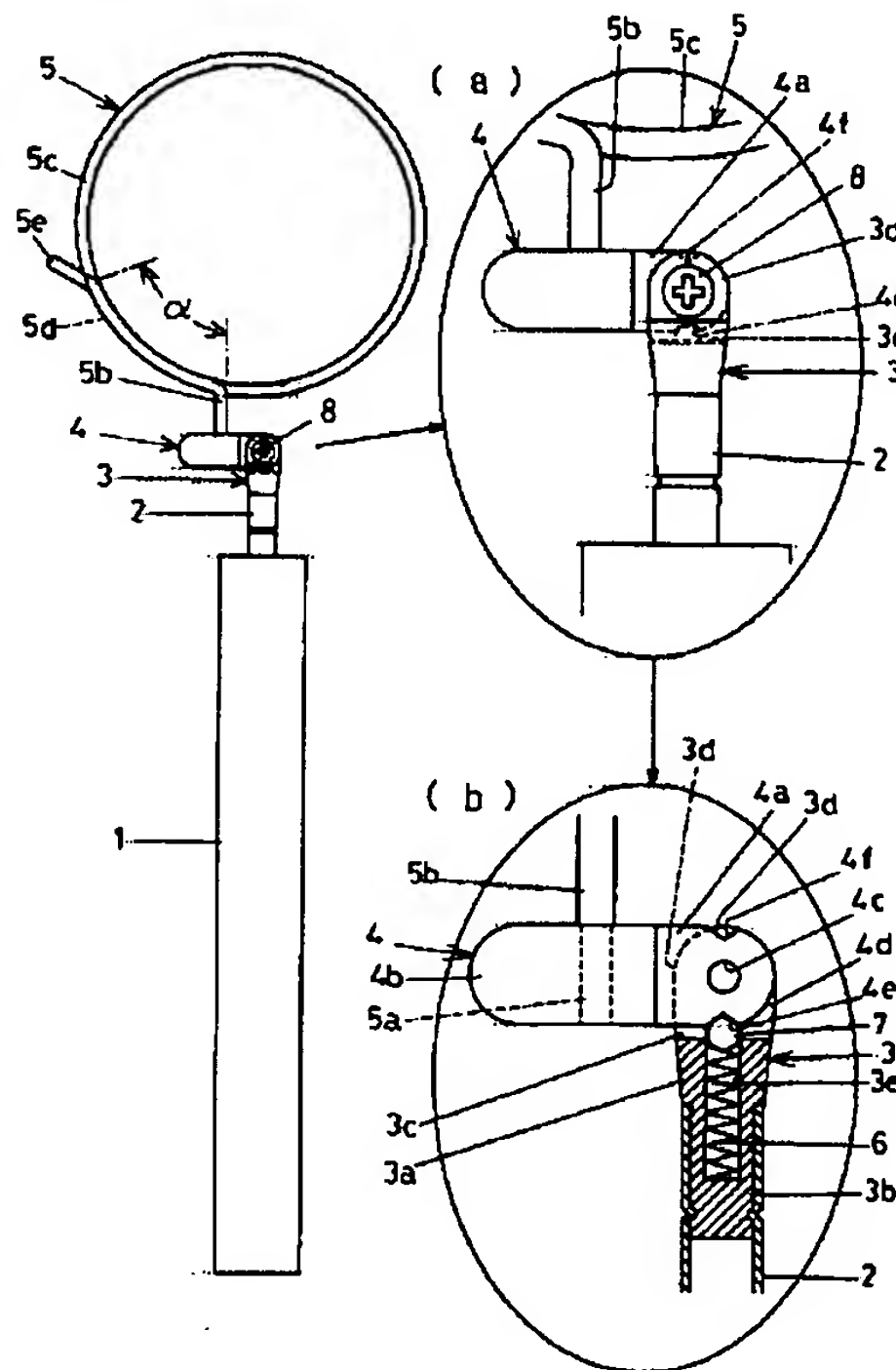
10 1 柄部

3c、3d、4a、8、 回動可能手段構成部材（ネジ、すり割、保持部、回動基部）

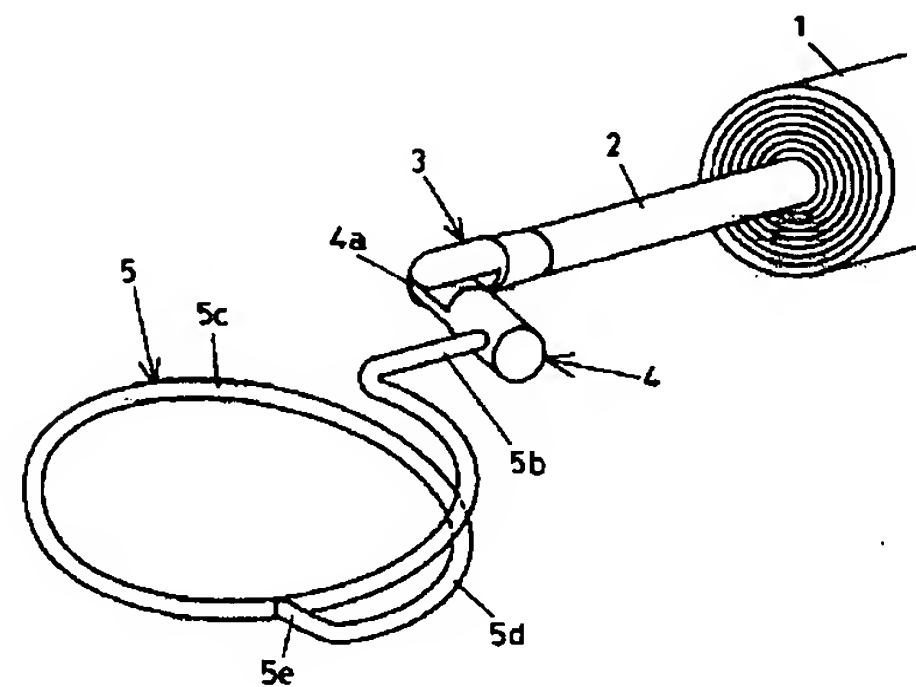
4e、4f、6、7、8 回動規制手段構成部材（切欠き、発条、球体、）

5 糸掛け部

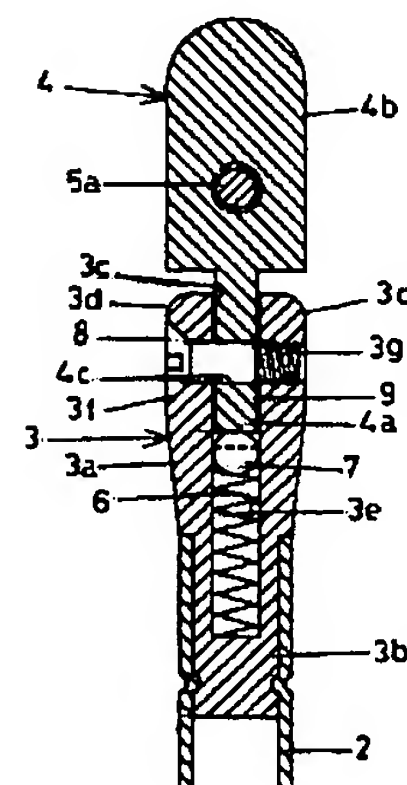
【図1】



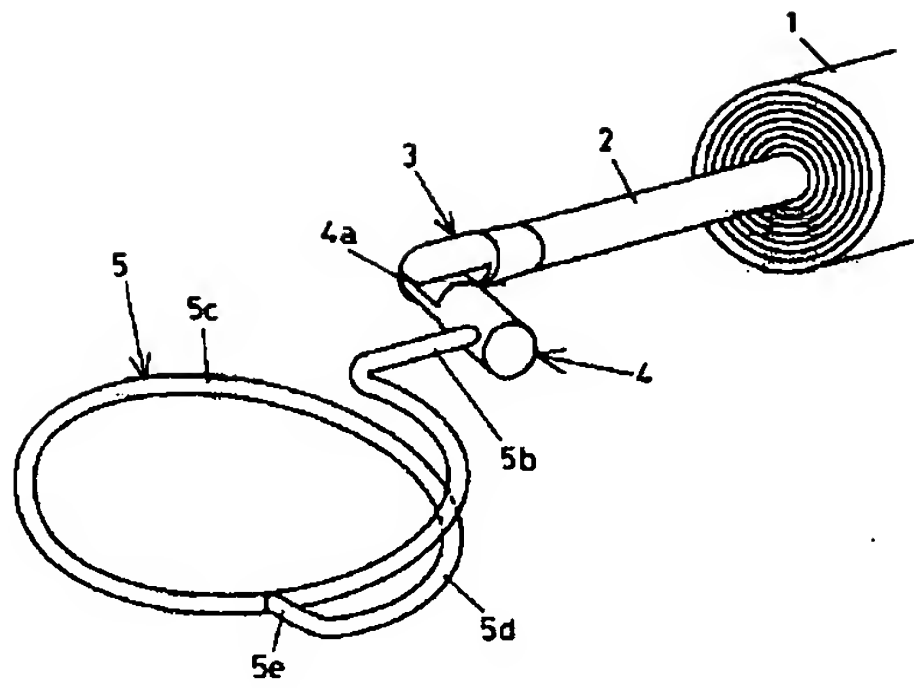
【図2】



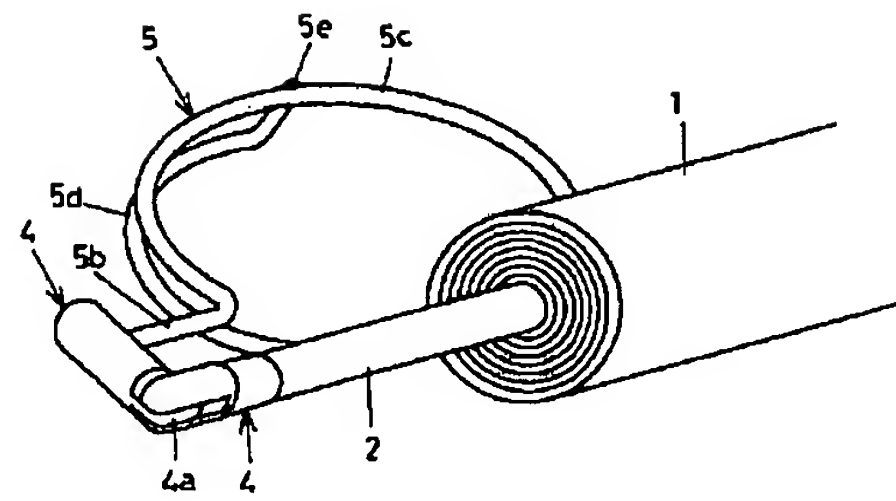
【図3】



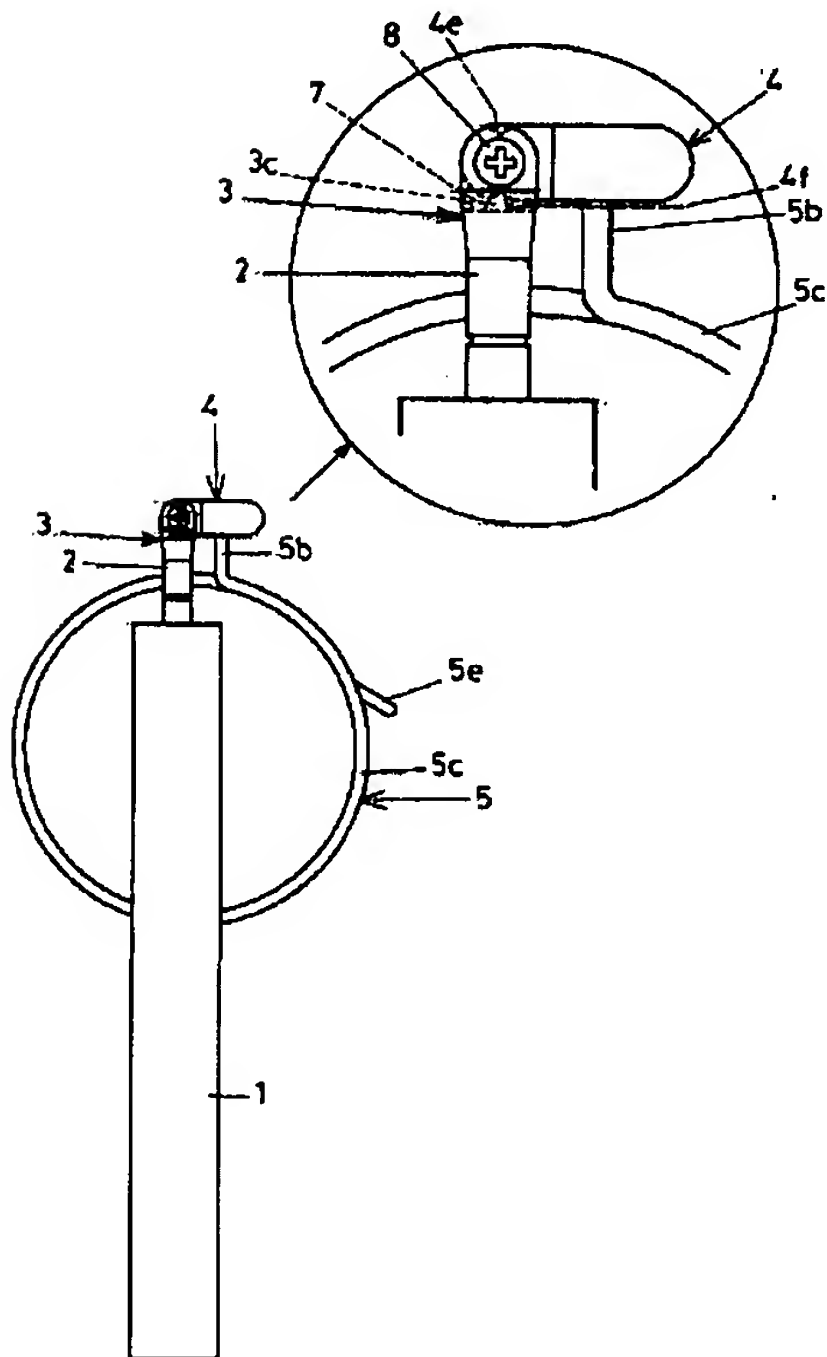
【図4】



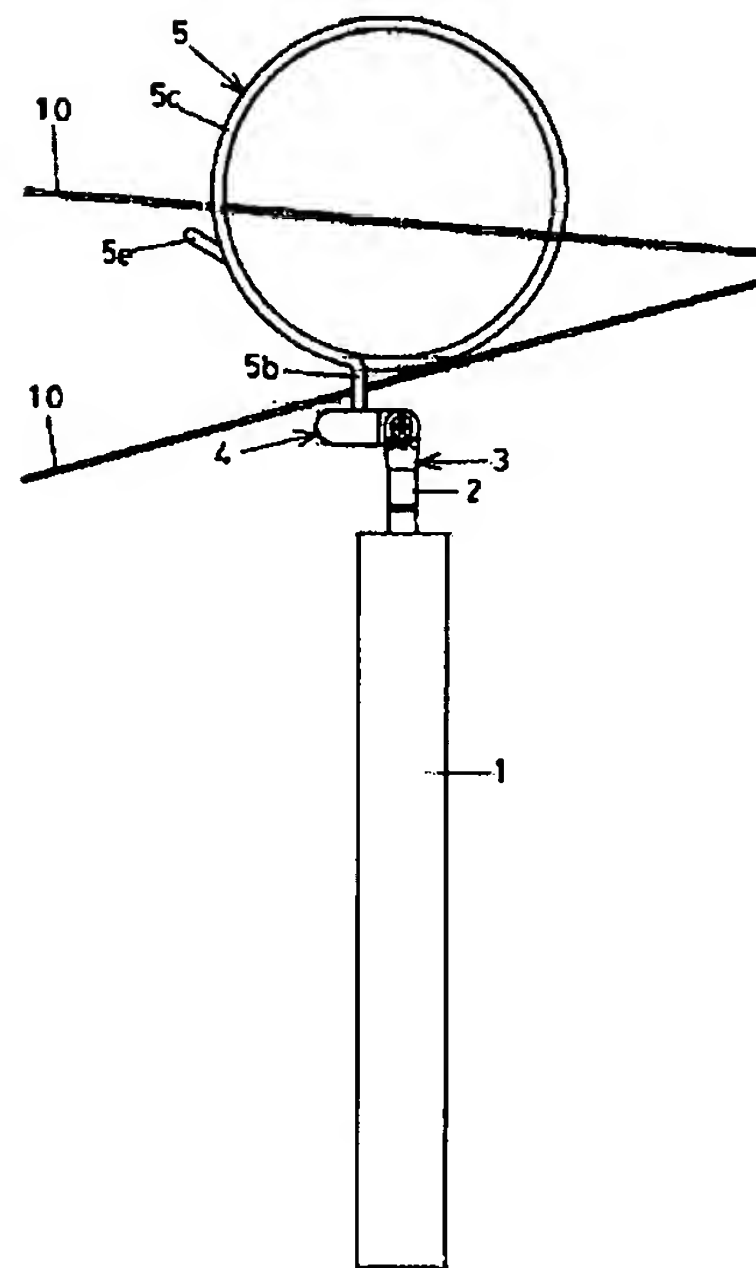
【図5】



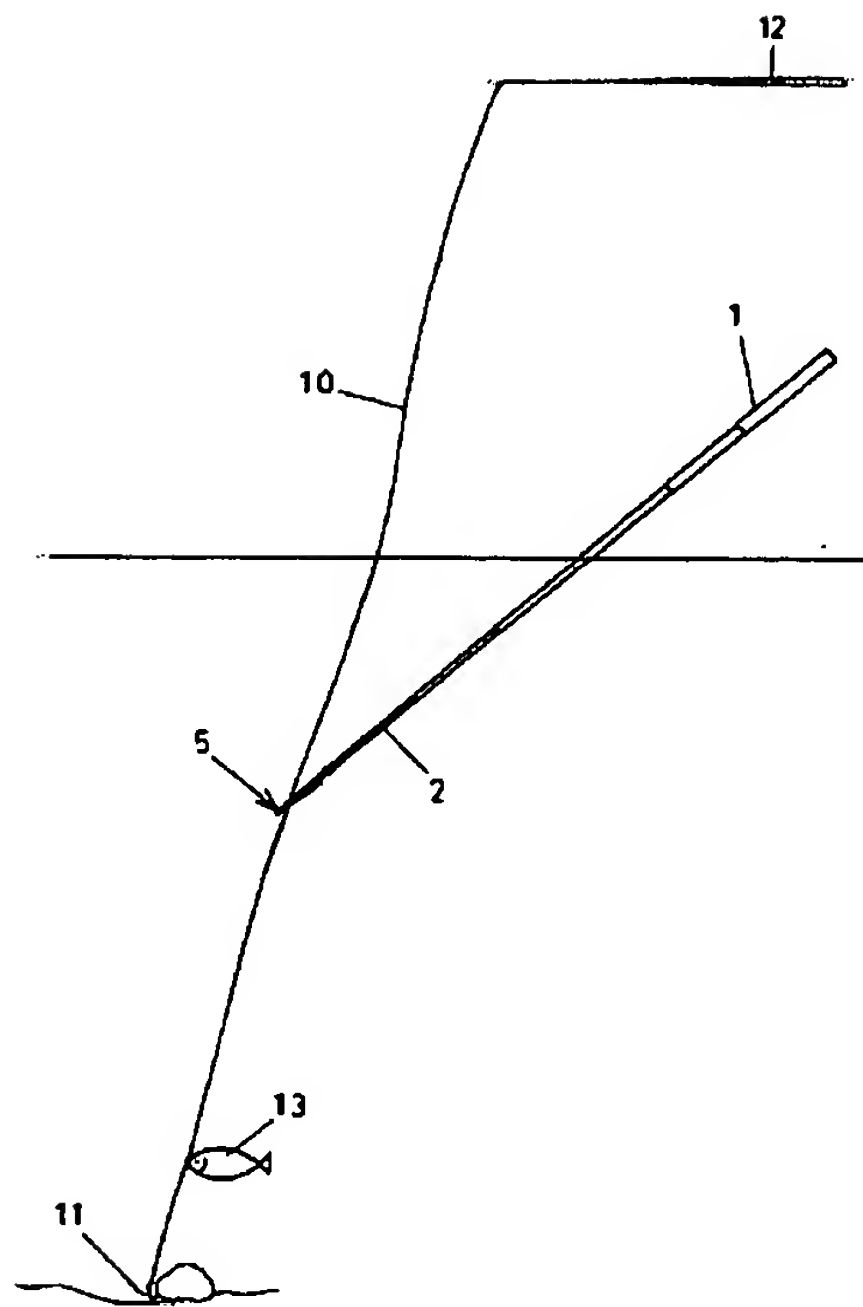
【図6】



【図7】



【図8】



DERWENT-ACC-NO: 2001-066164

DERWENT-WEEK: 200108

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Fishing hook removing device, has loop-shaped
thread
guard having rotating portion which rotates in
direction
same as direction of plane formed by loop

PATENT-ASSIGNEE: DAIWA SEIKO KK[DAIWN]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0126879 (May 7, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2000316447 A	November 21, 2000	N/A
006 A01K 097/24		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2000316447A	N/A	1999JP-0126879
May 7, 1999		

INT-CL (IPC): **A01K097/24**

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000316447A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A loop-shaped thread guard (5) is provided in the tip of an extensible handle (1). The thread guard has a rotating portion which rotates in direction same as the direction of the plane formed by the loop.

USE - For removing fishing hook from caught fish.

ADVANTAGE - Shortens end size and improves portability by turning thread guard to forward of handle.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figures include a part expansion plan view and a part enlarged section plan view of the fishing hook removing

device.

Extensible handle 1

Thread guard 5

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/8

TITLE-TERMS: FISH HOOK REMOVE DEVICE LOOP SHAPE THREAD GUARD ROTATING
PORTION

ROTATING DIRECTION DIRECTION PLANE FORMING LOOP

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2001-050000